

令和6年度 若葉保育園 自己評価

- (1) 保育方針 ・睡眠時間を確保し、情緒の安定を図り、主体的に物事に取り組む子を育てる・よく見るよく聞くよく考える保育で子どもの感性を育てる・食育と体育で心と身体を育てる・子どもの様々な自立を目指し、保護者や地域と協力して生きる力を育てる
- (2) 保育目標「のびのび いきいき 若葉っ子」 ・心身ともに丈夫な子ども ・自分の事が自分で出来る子ども ・感性豊かで思いやりのある子ども ・表現を楽しみ学びに関心を持つ子ども ・我慢する心と考える力を持つ子ども
- (3) 現状（前年度の成果・課題・改善策等）
- (4) 今年度の努力点・重点目標

メディアの弊害予防の為のノーメディアデー、情緒を安定させる為のミネラル補給、そして重点目標等子ども達の健やかな成長の為に本当に大切な事を活動としてあげているが職員の意識や取り組みに差を感じる。定期的にマニュアルの確認をし、もっと職員が共通認識をして取り組めるようにしたい。また、保護者へのアピールももっと積極的にして協力していく姿勢を構築したい。SDG's「love&peace」は自己肯定感を育てる意識や調べ学習の取り組み等、日々の保育にも反映出来ていた。職員の働き方改革は職員の間に浸透してきたと思う。不適切保育についての報道がなくなる中、保護者からのクレームも特にはなく職員に人権擁護の意識も定着してきている。環境構成の一環として職員の声の大きさや子ども達の活動中の声や音の大きさに配慮をするようにした。まだ声や音が大きくなる事が多いが継続していきたい。	子どもの人数は少なくなっているが愛着形成が気になり情緒が安定しない子が増えている。一人ひとりに向き合い、子どもの発達・成長に合わせた個別対応と集団としての行動のバランスを心掛ける。その為にも環境構成の重要性を意識する事や子どもの興味関心を引き出し子どもの主体性を育てる保育に取り組む。生活リズムを整える大切さやメディアの弊害、情緒の安定の為のミネラル摂取等を保護者にも知らせ園での取り組みを理解し協力してもらえるようにする。幼保小の連携強化が重視される中、園内でも縦割りの活動を大切にしてお互いを労ったり真似をしたりして思いやりの気持ちを育む。職員間でも協力しスムーズな働き方や保育内容の向上を目指す。感染症予防の取り組みを地域や保護者に協力してもらいながら、園や職員も徹底していく。
--	--

(5) 自己評価 4. とてもよく出来た 3. だいたい出来た 2. あまり出来なかった 1. ほとんど出来なかった

評価領域	評価する重点目標	職員アンケートから	保護者アンケートから	達成状況（成果や課題）	評価	関係者評価	評価	総合評価
落ち着ける空間・環境を作る	◎ゆっくり丁寧な言葉や動作を心掛け,子どもの目と耳と心に優しい環境を作る ・部屋を整理整頓し、優しい色の飾り,植物を置く等,子どもが心地よい空間を作る ・笑顔で子どもと接し,わらべ歌やふれあい遊びでスキンシップを大切にする ・自然・音楽・絵画・絵本の 20 回読み等で情緒の安定や感性・想像力を育む	大体出来たとする職員が多く、昨年度からの取り組みで少しずつ定着しつつあるように思う。しかし、部屋の清掃や活動内容での環境設定には職員で差があり課題が残る	保護者からの評価は高く特に「スキンシップを大切にした保育」では全員の保護者から「している」と評価をされた	園全体で環境の重要性を認識し足音や声の大きさ等にも意識が高まっている。しかし子どもやクラスによってはまだ騒がしかったり声が大きくなったりしているので引き続き定着を図りたい。絵本はしっかり読めたが行事前になると個人絵本の活用量が少ない月もあった	3	よい環境作りに努力している園は頑張っているので、保護者の評価を尊重してよい	4	4
子どもの「やりたい」を尊重し、主体性を育てる保育をする	◎子どもの話に耳を傾け子どもを肯定的に受け止めて,興味関心に沿った子ども主体の保育環境を整える ・子どもが自分で気付き考えている事を受け止め,その子に必要な支援をしつつ unnecessary 指示はせず見守る ・思いを聞いたり話したりするサークルタイム等,子ども同士でも話し合いで自己解決出来るように導く	子どもの主体性を育てる保育は多くの職員が意識して取り組もうとしている。しかし、まだ保育士の誘導で子どもが決めたようになっているいたり、発言する子に偏りがあったりと取り組みの工夫が必要	概ね良好な評価だったが「子ども同士で話し合って自己解決に導いているか」の設問では 0.1 歳児の保護者の多くが「分からない」と評価していた。年齢的に当然だと思う	保育士が誘導する事もあったがサークルタイムを大事にし、子どもと話し合い子どもの「やりたい事」を取り入れた主体性を育てる保育を心掛けられた排泄や食事等も個人の意思を尊重して対応出来ているがまだ unnecessary 指示を出してしまう事があるので指示の出し方に気を付けていく	3	小さい子に主体性は難しいと思うがよくやっている園に通う数年間の子どもの成長が見える	4	4
生活リズムを整える為に,睡眠・食事・運動を大切にした保育をする	◎早寝早起き朝ごはんの大切さを伝え,より良い園生活が送れるように保護者に働きかける ・メディアや夜型生活の弊害を知り,睡眠時間を確保する大切さを子どもにも伝え,生活環境の改善を行う ・ミネラルの重要性を知り心身の成長に必要な給食作りと食育を行い,食べる喜びと大切さを理解させる ・足をしっかり使った遊びや長距離散歩等で,足の機能を育てると共に体感を鍛えていく	生活リズムの大切さやメディアの弊害、ミネラルの重要性は職員の認識にも差があり、どれだけ保護者にアプローチ出来たかにも疑問が残る	一定の評価は受けているが、ミネラル摂取の大切さ・メディアの弊害・生活リズムの改善等「分からない」や「いいえ」の評価も思ったよりあった	ノーメディアの日は頑張るが日常は長時間視聴が多い家庭がある為毎日メディアの制限が出来る別の方法を考えたい朝食も菓子パン等の子が多く、食生活の重要性を職員皆がもっと意識して伝えていきたい。ほう遊びも充実させ研究発表に反映したい。長距離散歩には余り出かけられなかったのが残念だった。	2	園は信念をもって保護者に伝わらないのはある面仕方がない	3	3
保護者とのパートナーシップを深め,共に子どもを育てる	◎生活リズムを整え,年齢に応じた基本的生活習慣の自立を促す為の連携と支援を行う ・「園の願いと取り組み」を基に各年齢で分かりやすく伝え,家庭と連携して子ども真ん中保育の実現を目指す ・笑顔で優しく丁寧な言葉や挨拶で園の様子を伝え,保護者の思いに寄り添い育児・発達支援を積極的に行う	「とてもよく出来た」と評価する職員もいたが「余り出来なかった」と評価する職員が常勤に多かった。上記のように園の願いや取り組みを職員が理解し、保護者に伝えていく努力が必要	「園の願いと取り組み」の冊子を配布しているが「内容理解や子育ての参考になった」の設問に「分からない」や「いいえ」の評価が多かった。伝えているつもりではなく、願いや取り組みの具体的なアプローチが必要	「園の願いと取り組み」をしっかりと伝えられていなかったと反省。1 頃頃から園の取り組みの理由を含めてしっかりと伝えていきたい。信頼関係を構築し情報共有が十分出来た保護者とそうでなかった保護者と偏りがあったので保護者が理解しやすい情報発信の仕方を工夫し連携していく。挨拶＋一言を全員の保護者に実施し「子ども真ん中保育」を実践していく	3	「取り組み」はもう少し簡単に読めるように工夫するとよい園は頑張っているが保護者も余裕がないので仕方がない	4	3
職員の資質の向上	◎無駄な指示や否定語は使わずゆっくり静かな言葉で話し,誰とでもゆっくり丁寧な行動で接する ・日々の保育を自分や他の職員と振り返り,意識と技術の向上の為に園内外の研修で主体的に学び専門性を高める ・研修や会議では自分の仕事の役割や責任を理解すると共に,学び,力が発揮出来るように積極的に取り組む ・組織の一員としての自覚を忘れず,思いやりを持ってお互いに尊重し合い,新任や初任者とも協力協働する ・保育や保護者対応等,一人で抱え込まない雰囲気作りに気を付け合い,不適切保育が起きないようにする	不適切保育にならないような行動やゆっくり丁寧な対応等職員が意識出来るようにはなっている。しかし、声の大きさや言動が気になる場面もあり引き続きお互いに声を掛けあっていききたい。学びについても個人差が大きいので積極的に学ぶ姿勢を推進したい	保護者からの「職員の笑顔が良い」「子どもをしっかり見てくれていて安心して預けている」等、嬉しい好意的な意見が多かった。数名、職員の笑顔や言葉使用を否定的に捉えている保護者もいた	保育園の役割や理念を職員全員で再度確認し自分達の使命を意識していく。色々な園内外の研修を常勤が受けたり資料を回覧したりしているが職員の学ぶ姿勢に差があるので日々の情報共有や振り返りを行い意識を高め合う。不適切な言動について職員皆が気を付けているが更に「より良い保育」をする為に職員がお互いに気付いた事を注意し合えるような一歩踏み込んだ関係作りをする	3	目標を持って取り組もうとしていると思うが、それぞれの職員の自覚を尊重し今後の取り組みに期待する	3	3
業務改善と地域連携	◎職員の意識改革や統一を行い,保育の事前準備や行事の準備・書類の整理等は,全員が平等に協力して行う ・効率化や時間の利用法を工夫して働き方改革を進め,必要な残業はきちんと申請して行う ・子どもの現状と課題を職員全員で共通認識し,地域の専門家と協力・連携して発達支援を積極的に行う ・保育園の理念を地域や小学校入学の架け橋となる取り組みを行い,保護者に理解してもらい ・災害時・事故や緊急時の対応,一人ひとりの職員の責任意識や共通理解を深め,地域とも協力していく	全体的に「余り出来なかった」との評価が多かった。特に「保育の理念や架け橋となる取り組みを保護者に理解してもらい」が「出来ていない」だった。保育の理念や保育目標等をきちんと理解し日々の保育に反映していき地域交流も自分の事として取り組むようにしたい	専門機関との連携や地域との繋がりについては「分からない」と答えた保護者が多かった。発達支援は守秘義務もあるので難しいが、地域との繋がりがや幼保小の連携等は園だより等で知らせる事をもっと周知する必要がある	業務の IT 化や内容変更をする時は大変だが大分スムーズな対応が出来るようになり「働き方改革」も定着してきた。発達支援の専門家との連携が今年は少なかった。療育に通っている子の様子の共有や気になる子の訪問支援等の働きかけをする。小学校との連携は学校により差はあるが「架け橋カリキュラム」もあり十分行えた	3	外部から言えばフェスティバルや広報誌・ダム祭り等よくやっていると思う更なる小学校や地域との連携を期待する	3	3

(6) 園の評価の総括

・子どもの主体的な保育や落ち着ける空間作り,音環境等職員が丁寧な対応をする事も意識して取り組めているので、引き続き活かせるようにする ・縦割りでの遊びや保育が楽しく出来ていたが、各クラスの特徴がはっきりしているのでクラスの壁を取り払い、もっと相互交流が出来るようにしたい ・生活リズムの重要性やメディアの弊害等保護者に伝えているつもりでも伝わっていない事が多いので、保護者の大変さも理解しつつ、子どもの健やかな成長の為に伝えていく工夫がいる ・発達専門家にもっと働きかけて、子どもの様子を見てもらったり、保護者の思いに寄り添えるようにしたい ・SDG's の取り組みを 3 年間続けてきて子ども達にも定着してきて良い活動が出来たと思う。これからも続けていきたい ・以上児はみどりが丘図書館に皆で行き、公共施設での過ごし方や調べ学習等有益な利用が出来た。これからもしっかり利用し地域活動としても、もっと広げていきたい	・保育園の役割や理念を初心に立ち返り改めて意識した取り組みを実践すると共に、職員間で思いやり信頼を基に適切な指摘がし合える関係性作りをする ・主体的な保育や落ち着ける空間・環境作りは引き続き取り組み、更に職員間で伝え合ったり教えあったりして具体的な手立てを持って活動出来るようにする ・生活リズム、食事の重要性やメディアの弊害等お便りだけでなく、子どもや保護者に具体的に伝える工夫をする(劇等で視覚に訴える工夫) ・「子どもまんなか」の意味を職員が考え(キャラクター等)保護者にも分かりやすく伝えていくようにする ・笑顔、挨拶＋一言を更に意識して実践し、相談しやすい雰囲気作りで保護者との信頼関係を構築し、子どもや家庭での悩み等を一緒に考え支援を行う ・ほう遊びを通して子どもの姿勢や体幹が育つ様子を観察・考察し研究発表に繋げていく
--	---